18　　欲深い老僧　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　助詞④　係助詞

日ごろ経て後、静かなる時、ひとりの弟子言ふやう、「過ぎぬる夜、いと心得ぬ夢　　　Ａ【　　　】見え侍りつる。この庭に、色々なる鬼の恐ろしげなる、あまた出で来て、大きなる釜を塗り侍りつるを、あやしく覚えて問ひつれば、鬼のいはく、『この坊主の律師の料アなり』と答ふるとなん見えつる。何事にＢ【　　　】、深き罪おはしまさん。この事心得ず侍るなり」と語る。すなはち、驚き恐れイんと思ふほどに、耳もとまで笑みまげて、「この所望の叶ふべきにこそ。披露なせウられそ」とて、拝みければ、すべて言ふはかりなくてやみにけり。

智者なればＣ【　　　】、この律師までものぼりエけめ、年七十にてこの夢を悦びオけん、いと心憂き貪欲の深さなりかし。

【本文チェック】

①　ア～オの助動詞の、文法的意味を〔　〕に書きなさい。

ア〔　　　　　　〕　イ〔　　　　　　〕

ウ〔　　　　　　〕　エ〔　　　　　　　　　〕

オ〔　　　　　　　　　〕

②本文中の空欄【　】Ａ～Ｃに入る係助詞を左から選び、【　】に書きなさい。

　【かは・なん・も・こそ】

　Ａ【　　　】　Ｂ【　　　】　Ｃ【　　　】

③ふきだしに入る適当な体言を、本文中から抜き出して書きなさい。

【語彙力 ✚】

問１　次の語句の意味について、空欄を埋めよ。＊〔数字〕はノート本冊での本文の行数を表す。

１　心得〔１〕 　　　（　　　　　　　）

２　すなはち〔４〕　 ①（　　　　　　）

②そこで

問２　次の傍線部の意味として最も適当なものを選べ。

１　むかし、のと申すみこおはしましけり。（伊勢物語）

ア　おりまし　　イ　いらっしゃっ

ウ　お仕えし　　エ　仕えなさっ

（　　　）

２　、あまたさぶらひたまひける中に、いとやむごとなきにはあらぬが、すぐれて時めきたまふありけり。（源氏物語）

ア　たくさん　　イ　立派に

ウ　すべて　　　エ　ひどく

（　　　）

【文法力 ✚】

問３　次の（　）内の語を、係助詞に注意して、適当な活用形にして答えよ。

１　その人、かたちよりは心なむまさりたり（けり）。（伊勢物語）

（　　　　　　）

２　や（あり）。貸し給へ。（徒然草）

（　　　　　　）

３　の移りかはるこそ、ものごとに（あはれなり）。（徒然草）

（　　　　　　）

問４　次の文中にある係助詞の結びの説明として適当なものを、後から選べ。

１　うらなくいひ慰さまむこそうれしかるべきに、さる人あるまじければ、（徒然草）

（　　　）

２　え言はぬことを、かうふこそ。（源氏物語）

（　　　）

ア　結びの流れ　　イ　結びの省略

問５　次の傍線部を現代語訳せよ。

１　建仁寺の塔も度々の炎上にれたり。故あるにや。（沙石集）

（　　　　　　　　　　　　　　　　　）

２　明日こそ知らね、暮れぬ間の今日はあはれなり。（井関隆子日記）

（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

３　「なほ誤りもこそあれ」とあやしむ人あり。（徒然草）

（　　　　　　　　　　　　　　　　　）

【探究】調べてみよう

問６　古典文学では、今回の話のようにあきれた僧侶も多く登場する。調べて紹介しよう。

〔

〕

【解答】

【本文チェック】

①　ア＝断定　イ＝推量　ウ＝尊敬　エ＝過去推量　オ＝過去婉曲

②　Ａ＝なん　Ｂ＝かは　Ｃ＝こそ　　③　鬼

問１　１＝理解する　２＝すぐに

問２　１＝イ　２＝ア

問３　１＝ける　２＝ある　３＝あはれなれ

問４　１＝ア　２＝イ

問５　１＝あるのだろうか　２＝明日のことはわからないけれども

　　　３＝間違いがあってはいけない

問６　観点　まずは、『徒然草』『宇治拾遺物語』『古今著聞集』『沙石集』などのように僧侶が登場する作品を探し、その中から「あきれた僧侶」が登場するものを絞り込もう。

【現代語訳】

問２　１　昔、惟喬の親王と申し上げる親王がいらっしゃった。

２　女御、更衣がたくさん（帝に）仕えなさった中に、それほど高貴な家柄ではない方で、特に（帝の）寵愛を受けなさるお方があった。

問３　１　その人は、容貌よりはとりわけ気立てが優れていた。

２　蓑笠はあるか。貸してください。

３　季節の移り変わることこそ、何事につけてもしみじみと趣深い。

問４　１　心置きなく話し合って心を慰めてこそ嬉しいことだろうが、そういう人がありそうにないので、

２　言えないことを、そのように（しいて言えと）おっしゃるのは（本当につらいことです）。

問５　１　建仁寺の塔もたびたびの火事を免れた。何かわけがあるのだろうか。

２　明日のことはわからないけれども、暮れないうちの今日は感慨深い。

３　「それでもまだ間違いがあってはいけない」と危ぶんでいる人がいる。